

■ 肢体不自由支援学校や院内学級における実践事例

子どもたちの可能性を伸ばす

—マルチメディアDAISY図書活用の試み

東京都立光明特別支援学校・東京都立光明特別支援学校そよ風分教室
達 直美・安井 直子・禿 嘉人

はじめに

本校は、肢体不自由のある児童・生徒が多く学んでいる特別支援学校です。また、国立成育医療研究センター内に院内学級として療養中の子どもたちが通うそよ風分教室が設置されています。「子どもたちの夢や希望を叶える学校」を理念に、子どもの可能性を信じて最大限に伸ばし、それぞれの役割に応じた自立と社会参加を目指しています。

教育目標は、以下の4つです。

- ①健康で安全な生活を送るための力を身につける
 - ②自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につける
 - ③豊かな感性を育み、心豊かに生活できる力を伸ばす
 - ④互いの人格を尊重し、社会の中で協力・協働していく力を育む
- マルチメディアの活用は、②と③に深くかかわるものであると考えます。本校は、ICT教育を推進しており、

最新機器など充実した環境が整っています。それらの機器をなぜ・何のために活用するのか 子どもたちの夢や希望を具現化するために活用することが望まれるところです。

高等部では、将来の生活を視野に入れて、より一層、一人ひとりのニーズに応じた教育実践が求められ、パソコンやタブレット端末、AAC機器などを活用しながら、基礎・基本の学習力・コミュニケーション力・情報収集力などをつける取り組みを行っています。

また、そよ風分教室では、紙の本を病室内に持ち込むことができない場合があるなど衛生面での制約や外部とのかかわりが制限されていることなどから、情報機器の活用が期待されています。

その一環であるマルチメディアDAISY図書の活用はまだまだ広がっておらず、この試みを通して、その有効性を教職員間で共有し、理解啓発していく必要性を感じます。そし

て、これらの活用を通して、子どもたちの潜在的な可能性を見出し、豊かな将来へ繋げたいと考えています。

高等部での活用

(1) 研究テーマ

「肢体不自由の子どもたちの可能性を伸ばすマルチメディアDAISY図書の試み」

(2) 研究目的

肢体不自由のある子どもたちの可能性を最大限に引き出すためのマルチメディアDAISY図書の活用を行う。

①本を読むことの楽しさを知り、学習への関心や興味・関心を拡げる。

語彙力・知識・読解力・情動

②自分で本が読める喜びを通して自己効力感を育み、余暇活動としての活用を試みる。

③群読など声を出して読むことで発声力をつける。

(3) 活用の実際

①対象：高等部の生徒

教育課程：主に知的代替の課程、一部自立活動を主とした課程

②活用の場面

学校…個別の学習の時間・生活単元の時間・休憩時間など

家庭…長期休業中や土日

③活用ルール

文字をみたり、話を聞いたりすることへの集中力が持続する時間は、子どもの実態に応じて配慮する必要があります

ます。使用する時間を予め伝えます。

④子どもの様子

iPadのVoice of DAISY (VOD) を活用しました。

<個人で視聴>

・Aさん（知的代替）…自分の興味・関心のある本を持参して読むことができる子どもです。『国会シリーズ』や『古都・京都のたび』や『野鳥シリーズ』などを選択して読んでいました。「本を読むときにページをめくるのが楽！ またふりがながあるので読みやすい」と言っています。本屋さんでは、自ら手にしないジャンルの本に興味・関心をもつことができた様子です。

・Bさん（知的代替）…自分で学校の図書を借りて読むことができる子どもです。当初なじみのある絵本に関心を寄せていましたが、魔法の宅急便を選択し読む様子が見られました。字を追いながら読むことを音声読字をサポートしてくれ、抵抗感が軽減された様子です。漢字検定などに取り組む子どもの語彙力の向上に期待できます。

<支援者と視聴>

・Cさん（知的代替）…障害特性により麻痺があり、自分で本のページをめくることができない子どもです。日常的な会話などコミュニケーションをとることができますが、文字と

言葉のマッチングには課題があります。『大きなかぶ』や『あいうえおにぎり』などフレーズが繰り返されるものや面白い言葉が気に入った様子です。『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』では、「歯医者さん怖いんだよ」と言いながら演劇風のセリフを楽しんでいました。

自分でページをめくることの困難さを軽減してくれるマルチメディアDAISY図書は、自分でも読めるという自己効力感を育むことが期待できます。長期休業中や土日に家庭で試むことで、余暇活動の一つとなるのではないかと考えています。

<集団の授業で視聴>

学年縦割りグループの生活単元…実態のさまざまな子どもで構成される「食品加工」の授業です。フレンチトーストなどを短い時間でできる調理をしています。その学習の一環として食べ物に関したお話のDAISY図書を視聴しました。『パパンがパン』は、自立活動を主とした課程で学ぶ意思表示がなかなかできない子どもたちもジーンと画面を見つめ、次に何が出てくるのか期待している様子や、劇団の人のリアルなセリフに関心をもつ様子が見られました。

(4) 今後の活用方法と課題

今後は、一定の時間を決めて継続指導することで、子どもの変容をみ

る必要があります。また、集団で視聴し、声を上げて読む取り組みをとりいれながら、発声力をつけていきたいと考えます。その結果、授業や人と話すときなどに自信をもって大きな声ではっきり言える姿を期待したいと思います。

効果が予想されることは、以下の通りです。

- ①語彙や文章の理解が増え、正確に読み取ることができる。→学習の意欲が向上する。
- ②わからないところを繰り返し見ることで本の内容の理解が深まる。
- ③自分で読めることで自分でもできるという自己効力感が育める。また、人の手を借りずに自分で取り組めるので自立心が芽生える。
- ④余暇の過ごし方の一例となる。

iPadのVODを活用することで、気軽にどこでも視聴できました。DAISYは障害種に限らずどの子どもたちにとっても、目的をしっかりとつことで有効に活用できるものだと思います。

今後もDAISY図書の機能を有効に活用し、エビデンスに基づく実践を積み重ね、子どもたちの可能性を広げていきたいと考えます。



院内学級での活用

(1) 研究テーマ

「長期入院中の児童の興味・関心を広げる読書の試み」

(2) 研究目的

病気治療のため長期入院中している児童は、活動の内容や活動場所に制限がある場合が多いため、興味や関心の幅がどうしても狭くなってしまふことがあります。そこで、読書活動を通し本に触れることで、自分の好きなこと楽しみなことを増やしていきたいと考えテーマを設定しました。

(3) 活用の実際

①対象：そよ風分教室に在籍している小学1年生

②活用の場面：国語の授業。分教室に登校できないため、病室内で実施しました。

③子どもの様子

対象となる子どもたちには、今年度からマルチメディアDAISY図書の活用を始めました。導入にあたっては、該当する子どもの好きそうな本を教員から勧めることからはじめ、その後、徐々に本人の読みたい本を聞いて活用しました。

活動を繰り返すうちに、『あいうえおにぎり』『ケーキ・ケーキ・ケーキ』などのお気に入りの本ができて、繰り返し聞きたいと要求するようにな

りました。このように自分から進んで要求をすることは、1学期には見られなかったことでした。

マルチメディアDAISY図書は、絵や文字が鮮明で見やすく、音声も教員の声とは異なるので、より興味が高まったのではないかと思います。また、子どもの実態から、文字の大きさを変更して見やすくする必要があり、こうしたことが手軽にできるところが便利で、一般的な紙の本にはないメリットだと感じました。

(4) 今後の活用方法と課題

読書に興味をもったことから、話を楽しむだけでなく、今後は文字を覚えるために本を活用していきたいと思っています。

衛生面の制約から一般的な本に触れる機会が少ない子どもたちにとって、電子図書は身の回りのことに興味や関心を高めるための有効な手段となります。今後、子ども向けの電子図書がより充実していくことを期待しています。

